

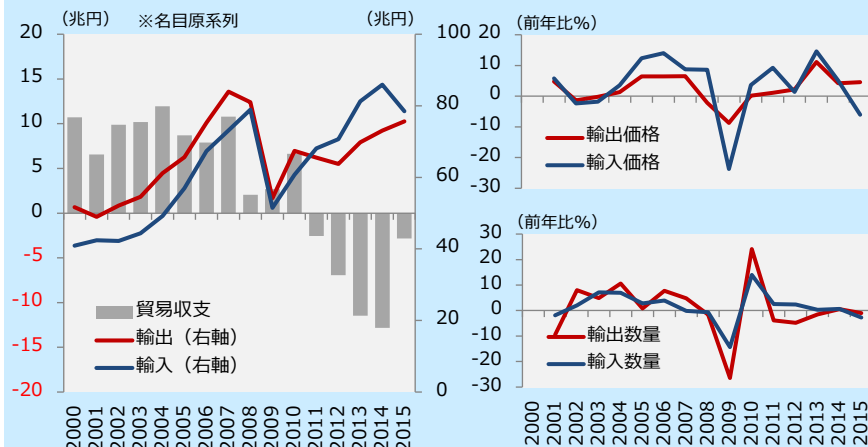
日本：貿易統計（15年および15年12月）

円安と原油安により15年の貿易収支は大幅改善

MRI Daily Economic Points
January 25, 2016

名目輸出入と貿易収支

価格指数と数量指数

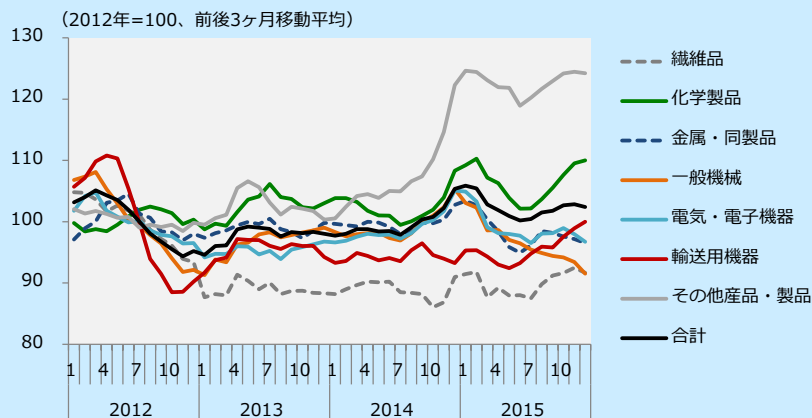


評価ポイント

15年および15年12月の結果

- 15年の貿易統計は、輸出が前年比+3.5%、輸入が同▲8.7%となり、貿易収支は▲2.8兆円の赤字。ただし、円安による輸出価格の上昇(+4.6%)と原油安による輸入価格の下落(▲6.0%)などを背景に、14年の▲12.8兆円から赤字額が大幅に縮小した。
- 15年12月の貿易統計は、輸出が前年比▲8.0%と3ヶ月連続で減少。輸入は同▲18.0%と12ヶ月連続の減少。貿易収支は+1,402億円と12月としては10年以来の黒字。季調値でも+366億円と前月(+224億円)から黒字幅が拡大。
- 地域別の実質輸出(※当社にて季調)によると、総じて改善しており、米国向けが好調を維持しているほか、EU向けも持ち直しの動きが鮮明になっている。アジア向けも低水準ながらも緩やかに持ち直している。
- 品目別の実質輸出(※当社にて季調)によると、やや動きにばらつきがあり、中国の投資鈍化などを背景に一般機械は悪化が続く一方、米国自動車販売の好調などから輸送用機械は持ち直しの動きがみられる。電気・電子部品は、底打ちはしたものの中国の需要鈍化などを受け回復力が鈍い状況にある。
- 15年10-12月の結果を基に、外需のGDPへの寄与度を計算すると、実質前期比▲0.1%p程度のマイナス寄与が予想される(15年7-9月は同+0.1%p)。

品目別の実質輸出



基調判断と今後の流れ

- 輸出の先行きは、米国経済の堅調持続と欧州経済の緩やかな回復がプラス材料となるものの、中国経済や資源国経済の減速が重石となることから、輸出全体としては緩慢なペースでの回復にとどまるであろう。
- 年明け以降、原油価格が一段と下落しており、これ自体は貿易収支の改善要因となる。ただし、今後注意すべきは過度な原油安が輸出の減少をまねくりスクである。原油安の影響は資源国にとどまらず、投資家のリスク回避姿勢の強まりを通じて世界の金融市場が不安定化しており、これが長期化すれば非資源国の成長も下振れし、輸出全体の下押し要因となる。